

科目名	言語発達障害Ⅰ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科1年	後期	必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

「ことば」の発達は多面的な要素から成り立っていることから、その評価、治療方針、治療内容を総合的視点を持って臨む力を身に付けることを目標とする。

〔授業全体の内容の概要〕

前半では「言語発達障害についての基本的理解」、後半では「治療アプローチについての紹介」を行なう。

〔講師の実務経験〕

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

発達障害に伴う言語発達障害についての援助方法を学ぶ。

回数	講義内容
1	言語発達障害学総論
2	自閉症と広汎性発達障害①
3	自閉症と広汎性発達障害②
4	自閉症と広汎性発達障害③
5	自閉症と広汎性発達障害④
6	高機能自閉症とアスペルガー症候群①
7	高機能自閉症とアスペルガー症候群②
8	高機能自閉症とアスペルガー症候群③
9	知的障害①
10	知的障害②
11	知的障害③
12	知的障害④
13	脳性麻痺①
14	脳性麻痺②
15	脳性麻痺③

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学		医学書院

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。